

成田新高速鉄道・北千葉道路 埋蔵文化財発掘調査報告書 6

— 成田市松崎外小代内小代遺跡(2) —

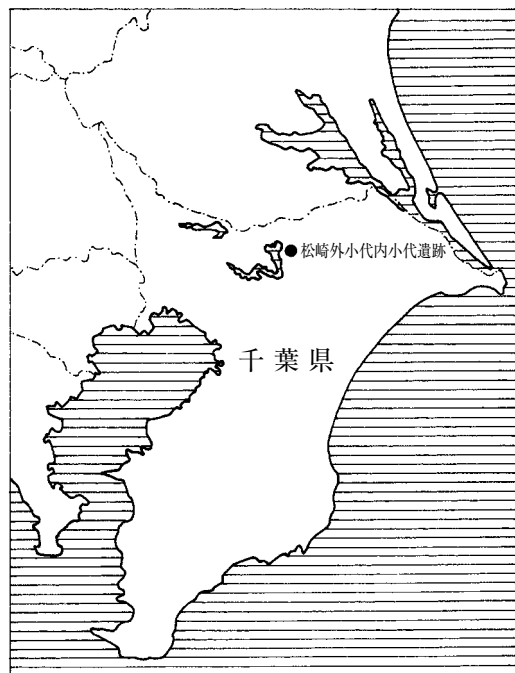
平成24年10月

成田高速鉄道アクセス株式会社

公益財団法人 千葉県教育振興財団

成田新高速鉄道・北千葉道路 埋蔵文化財発掘調査報告書 6

なりた まんごきそと こだうち こだい
— 成田市松崎外小代内小代遺跡(2) —



序 文

公益財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第694集として、成田新高速鉄道・北千葉道路建設工事に伴って実施した成田市松崎外小代内小代遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、奈良・平安時代の集落跡の遺構・遺物が発掘され、この地域の歴史を知るうえで多くの貴重な成果が得られています。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

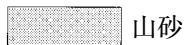
終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また発掘から整理までご苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成24年10月

公益財団法人千葉県教育振興財団
理 事 長 渡 邊 清 秋

凡 例

- 1 本書は、成田高速鉄道アクセス株式会社による成田新高速鉄道・北千葉道路建設工事に伴う埋蔵文化財の調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、成田市松崎字外小代1904番地ほかに所在する松崎外小代内小代遺跡（遺跡コード211-077）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田高速鉄道アクセス株式会社の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆・編集は主任上席文化財主事 倉内郁子が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育振興部文化財課、成田市教育委員会、成田高速鉄道アクセス株式会社、千葉県北千葉道路建設事務所ほか多くの方々からご指導、ご協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
国土地理院発行 1:25,000 地形図「成田」(NI-54-19-10-3) 平成16年
成田市作成 1:2,500 「成田市地形図24」(平成12年修正)・「成田市地形図31」(平成10年修正)
- 8 周辺地形航空写真は京葉測量株式会社による平成14年1月撮影(S=1/10,000)のものを使用した。
- 9 本書で使用した座標値は第1図の周辺地形図を除き、世界測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 10 図などの表現の凡例は以下のとおりである。



山砂



赤彩



黒色処理



灰釉陶器

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 調査の方法と成果	3
第3節 遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第2章 遺構と遺物	7
1 竪穴住居跡	7
2 掘立柱建物跡	11
3 土坑	11
4 井戸跡	13
5 縄文時代の遺物	14
6 まとめ	14
報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 周辺地形図と調査区	2
第2図 第8次調査区全体図	3
第3図 松崎外小代内小代遺跡上層遺構分布図	4
第4図 周辺の主な遺跡	6
第5図 SI-051号住居跡実測図・遺物出土状況図	8
第6図 SI-051号住居跡出土遺物	9
第7図 SI-052号住居跡実測図及び遺物出土状況図・出土遺物	10
第8図 SB-016号掘立柱建物跡実測図	11
第9図 SK-130・131号土坑・SK-129号井戸跡実測図・出土遺物	12
第10図 調査区出土の縄文土器	14

表目次

第1表 出土遺物観察表	15
-------------	----

図版目次

図版1 周辺航空写真	
図版2 SI-051号住居跡全景・SI-051号住居跡遺物出土状況・SI-052号住居跡全景	
図版3 SB-016号掘立柱建物跡全景・SK-129号井戸跡全景・SK-131号土坑全景	
図版4 SI-051住居跡出土遺物・SI-052号住居跡出土遺物	
図版5 SK-129号井戸跡出土遺物・SI-051・052号住居跡及びSK-129号井戸跡出土文字・記号資料・調査区出土の縄文土器	

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と経過

一般国道464号北千葉道路は、松戸市から千葉ニュータウンを経て、成田市を結ぶ全長約47kmの幹線道路である。この度、首都圏や県西地域と成田国際空港間とのアクセス強化などを目的に、印西市（旧印旛村）若萩から国道295号に接続する成田市大山までの北千葉道路（印旛～成田）建設と、印旛日本医大駅まで開通している北総鉄道北総線を東に延伸し、成田国際空港に直結させる成田新高速鉄道建設を一体的に整備することが計画された。これらの一体的な整備は空港アクセスの大幅な改善にとどまらず、地域の活性化、交通処理能力の向上、物流効率化、成田市街地の交通円滑化、広域道路ネットワーク・救急医療・防災機能の強化などにも大きく寄与することが期待されている。

なお、成田高速鉄道区間については、平成22年7月17日に京成電鉄成田空港線（愛称「成田スカイアクセス」）として開業した。

この成田新高速鉄道・北千葉道路整備の実施にあたり、平成16年9月15日付け道計第145号で千葉県県土整備部道路計画課より「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査結果を踏まえ、平成16年11月29日付け教文第16号63で事業計画地内には松崎外小代内小代遺跡など、6か所に埋蔵文化財包蔵地が所在する旨の回答を行った。そしてこの回答を受け、その取り扱いについて関係機関による協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、公益財団法人千葉県教育振興財団が発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は調査区の都合により8区、8次にわたって実施した。本書に収録した遺跡は平成23年度に実施した第8次発掘調査分で、調査組織及び発掘調査と整理作業の担当者は以下のとおりである。

平成23年度 調査研究部長 及川淳一

北部調査事務所長 野口行雄

（発掘）第8次

調査期間 平成24年2月1日～平成24年2月28日

調査担当者 上席研究員 田島新

調査対象面積 665㎡ 確認調査 上層 -㎡／下層 24㎡

本調査 上層 665㎡／下層 0㎡

平成24年度 調査研究部長 関口達彦

整理課長 高田博

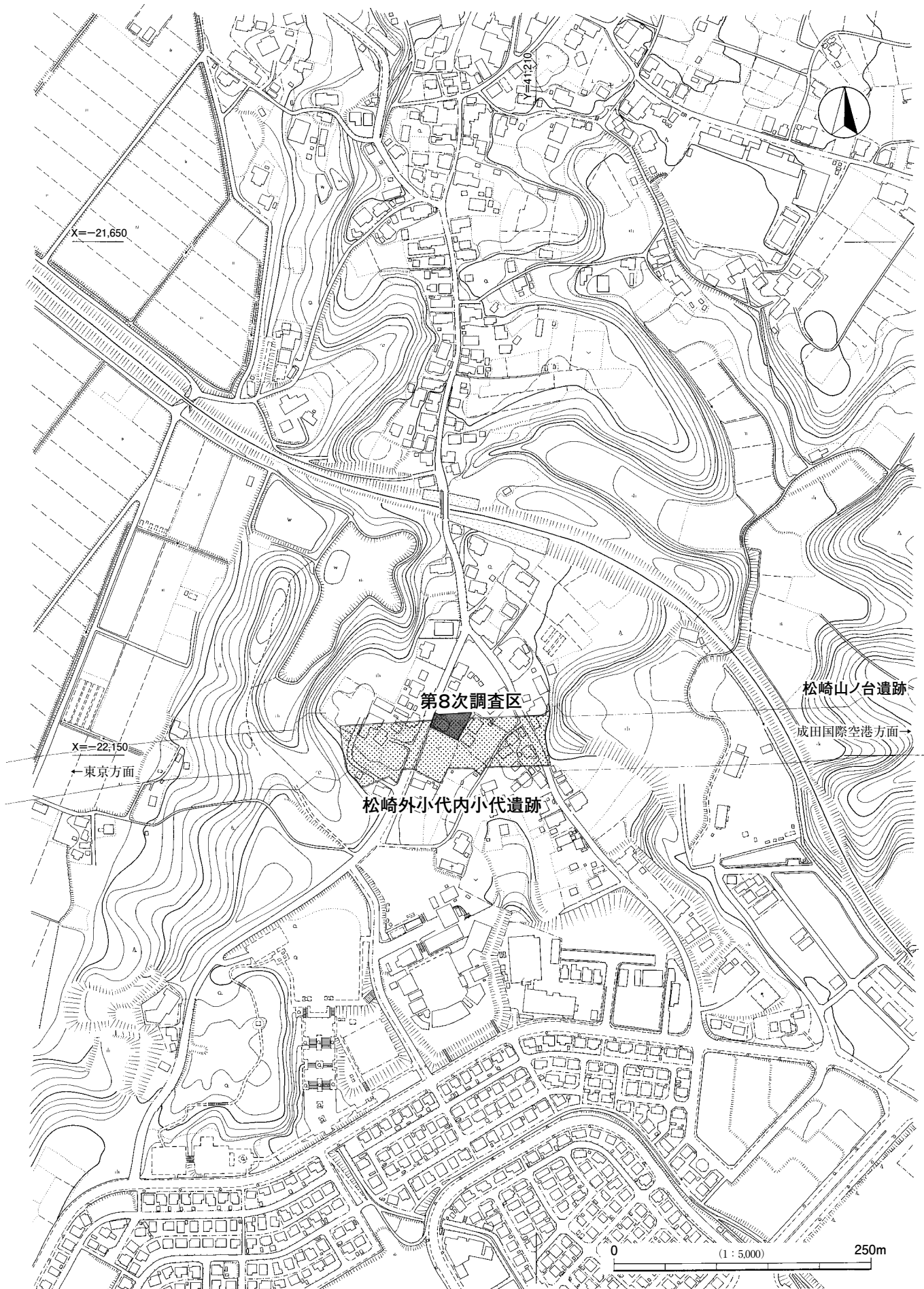
（整理）

整理期間 平成24年8月～平成24年9月

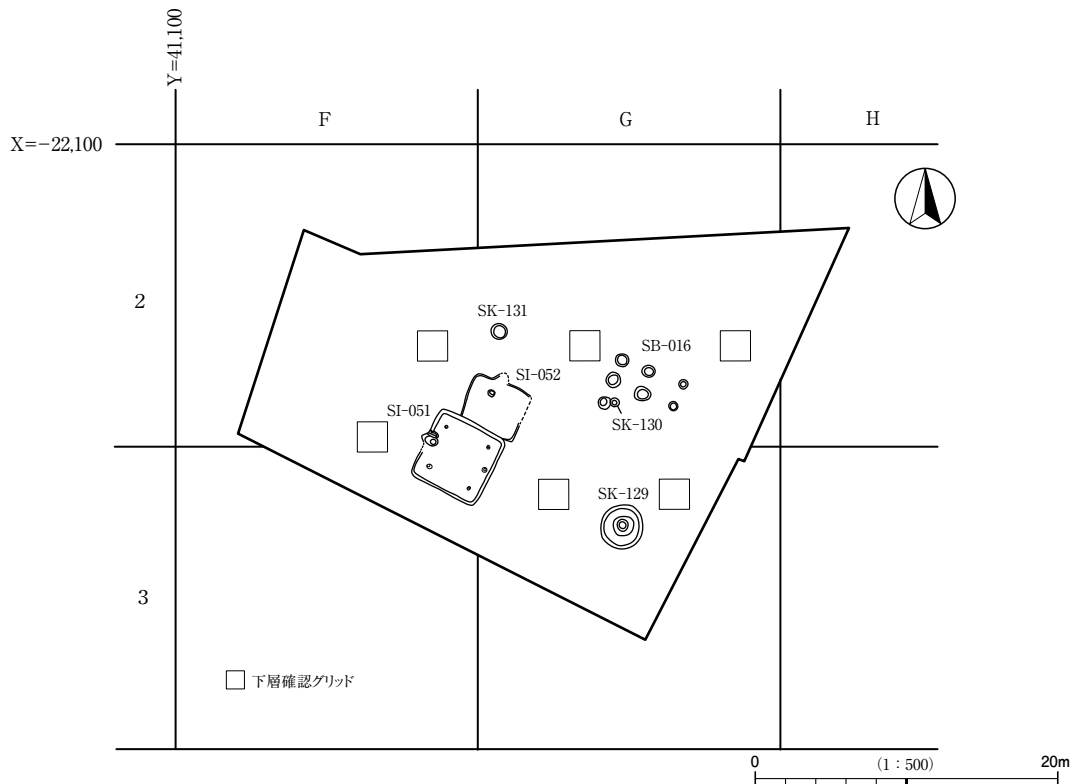
整理内容 水洗・注記から報告書刊行まで

整理担当者 主任上席文化財主事 倉内郁子

なお、第1次から第7次調査分についてはすでに調査報告書刊行済みである。



第1図 周辺地形図と調査区



第2図 第8次調査区全体図

第2節 調査の方法と成果（第1～3図 図版1）

発掘調査 調査にあたり、調査区全体を覆うように世界測地系（座標系IX）の $X=-22,080$ 、 $Y=41,000$ を起点（1A-00）に $20\text{m} \times 20\text{m}$ の方眼網を設定し、大グリッドとした。名称は起点から南方向に1・2・・・東方向にA・B・・・とした。大グリッドを2m四方に100分割し、北西隅を00、南東隅を99として小グリッドとした。グリッドの呼称は数字とアルファベットとを組み合わせ3F-06というように表記し、現地調査の記録類や遺物の注記にあたっても踏襲した。

上層については、対象面積 665m^2 について本調査を行い、奈良・平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑などが検出された。遺構の種別記号や、遺物の扱いについては、第1次から第7次までの方針を踏襲し、遺構番号については第7次調査時に続く通し番号とした。

上層の調査後に下層の確認調査を行った。設定したグリッドに従って $2\text{m} \times 2\text{m}$ の確認グリッドを調査区内に均等となるように配分し、立川ローム最下層まで掘削して旧石器時代石器の有無を確認したが遺物は出土せず、本調査は不要と判断した。

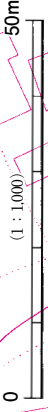
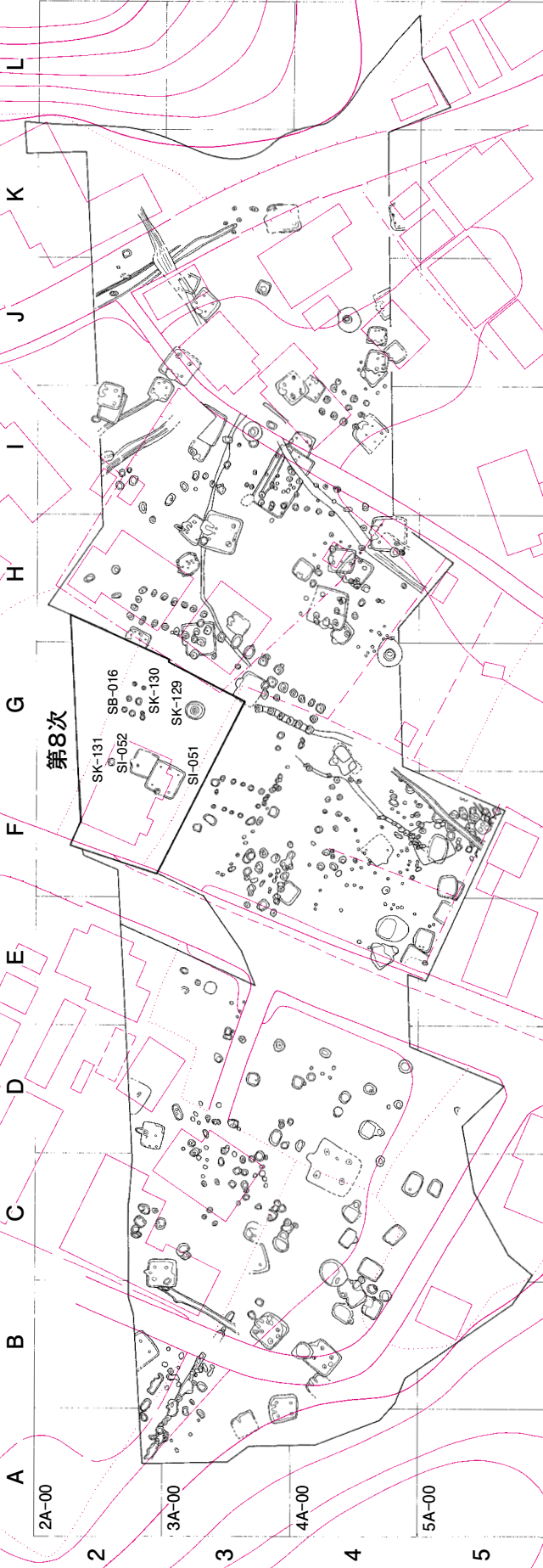
整理作業 報告書作成にあたっては、発掘調査において付けた遺構番号をそのまま使用している。整理作業は水洗注記を行った後、遺構ごとに遺物を種別分類してから、接合作業を実施した。土器類の接合の結果は、遺物分布図・遺物台帳に記載された平面位置と高さをもとに、接合状況図を平面と断面で作成した。また、遺存状態が良い遺物や、特徴がある遺物については実測、写真撮影を行い、本書に掲載した。

第3節 遺跡の位置と周辺の遺跡（第4図）

本遺跡が所在する成田市松崎字外小代および内小代は、成田ニュータウンの北端部に位置する。ここは、

00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20	22	23	24						
30		33							
40			44						
50				55					
60					66				
70						77			
80							88		
90								99	

小グリッド呼称法
(例 2Dグリッド)



第3図 松崎外小代内小代遺跡上層遺構分布図

印旛沼の北東岸で、西側を印旛沼の低地、東側を利根川に流入する根本名川の支流、小橋川、松崎川に開析された樹枝状の小谷に挟まれた台地上の、台地が最も狭くなつたくびれ部分の南側に位置し、標高は約32mである。

調査区は、台地最狭部の南約200mの地点で、東西を小谷で挟まれた台地のほぼ中心に位置する。台地最狭部は、台地東側を通る県道成田安食線と西側を通る成田ニュータウンからの都市計画道路との合流地点北側で、JR成田線に切断され、県道成田安食線の松崎跨線橋が架かる。調査区の地目は住宅及び畑で、台地下の水田面までの比高差は約25mである。本遺跡の東側台地上に位置する松崎山ノ台遺跡は、同事業で発掘調査が行われ、主に古墳時代後期集落跡および古墳時代終末期方墳の様相が明らかにされている。

周辺では、昭和44年から実施された成田ニュータウン造成に伴う埋蔵文化財発掘調査を端緒として、宅地造成、道路建設など開発事業に伴う大規模な発掘調査が実施されている。主なものとして、成田市では公津原遺跡群、囲護台遺跡群、台方下平Ⅰ・Ⅱ遺跡、郷部北遺跡群、主要地方道成田安食線に伴う発掘調査などがあり、隣接する栄町では、竜角寺ニュータウン遺跡群の発掘調査などがある。

主な発掘調査報告書は次のとおりである。

・松崎外小代内小代遺跡

2011 『成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書5－成田市松崎外小代内小代遺跡－』（財）千葉県教育振興財団

・松崎山ノ台遺跡

2009 『成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書1－成田市松崎山ノ台遺跡－』（財）千葉県教育振興財団

・公津原遺跡群

1975 『公津原 成田ニュータウン内遺跡の考古学的調査』千葉県企業庁・（財）千葉県地域振興公社

1981 『公津原Ⅱ』千葉県教育委員会

・囲護台遺跡群

1990 『成田都市計画事業成田駅西口土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』成田市囲護台遺跡発掘調査団 成田市教育委員会

・主要地方道成田安食線に伴う遺跡（1～7）

1993 『主要地方道成田安食線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』（財）千葉県文化財センター

・竜角寺ニュータウン遺跡群

1982 『龍角寺ニュータウン遺跡群』龍角寺ニュータウン遺跡調査会

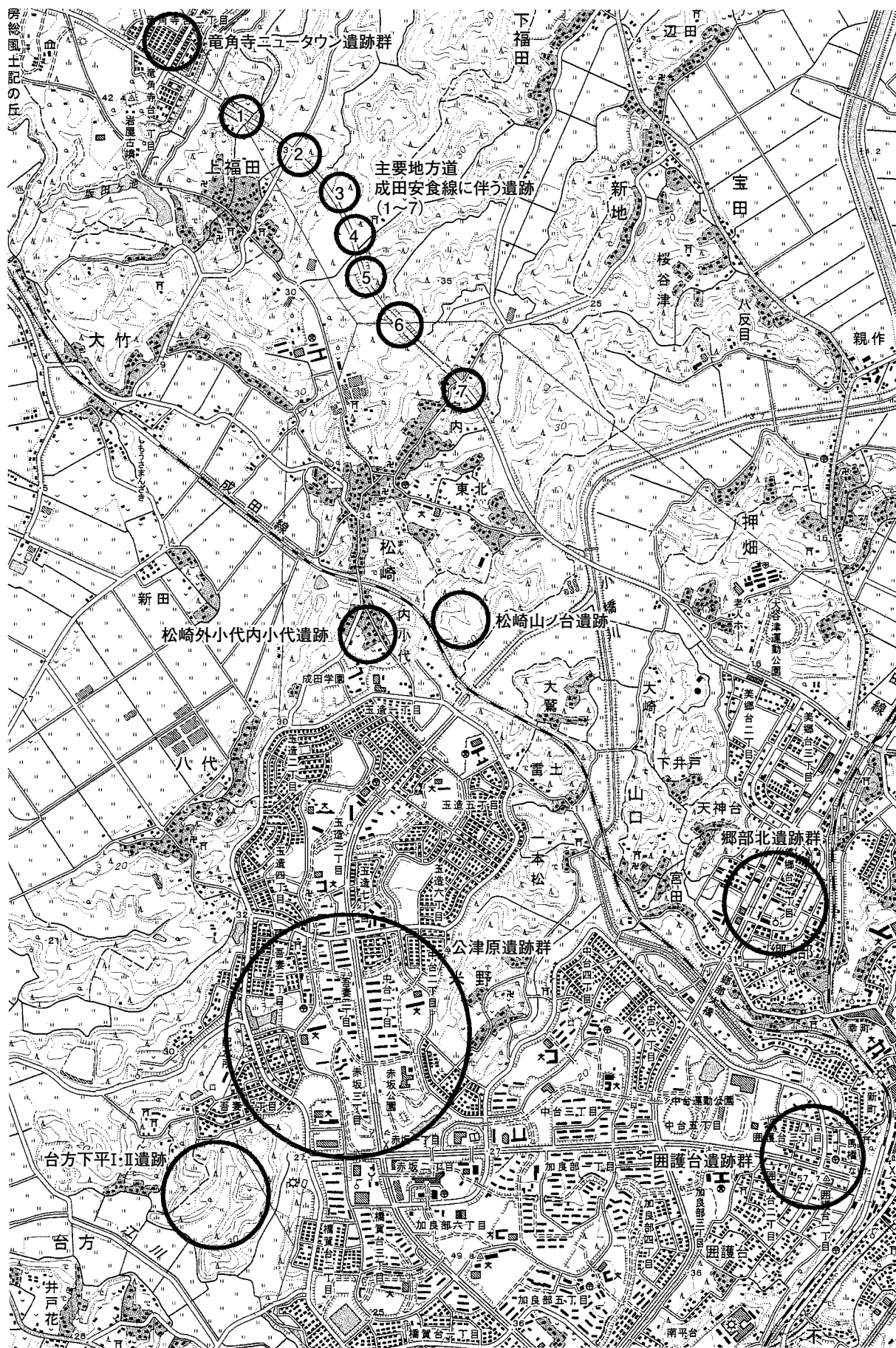
・郷部北遺跡群

1984 『成田市郷部北遺跡群調査概要（加定地・殿台遺跡）』成田市郷部北遺跡調査会

・台方下平Ⅰ・Ⅱ遺跡

2005 『千葉県成田市 台方下平Ⅰ遺跡 台方下平Ⅱ遺跡発掘調査概報－成田市公津西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査－』（財）印旛郡市文化財センター

2007 『千葉県成田市 台方下平Ⅰ遺跡－成田市公津西土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査－』（財）印旛郡市文化財センター



第4図 周辺の主な遺跡 (1/25,000)

第2章 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

SI-051 (第5・6図、図版2・4・5)

調査区の3F-09グリッド付近に位置する。覆土上部に、本跡より新しい時期のSI-052が重複する。4.95m×5.0mの隅丸方形を呈し、主軸方位はN-62°-Wである。現代の構造物による攪乱を受けているが、覆土は床面から約40cmの範囲までは5mm~10mmのロームブロックを含む暗褐色土、その上部はローム粒を少量含む暗褐色土と2層からなる。短期間に埋め戻されたものと考えられる。壁高は最大で44cmである。床面は平坦である。周溝はカマド掘り方部分を除き全周する。柱穴は4基、床面からの深さは、P1は43cm、P2は45cm、P3は57cm、P4は44cmをそれぞれ測る。カマド対面中央に出入り口ピットが検出された。深さは25cmである。カマドは北西壁中央に位置し、壁の掘り込みはやや浅く、火床部は壁から離れて床面に位置する。西側袖部は攪乱により失われている。遺物は、図示したものは床面近くから出土している。

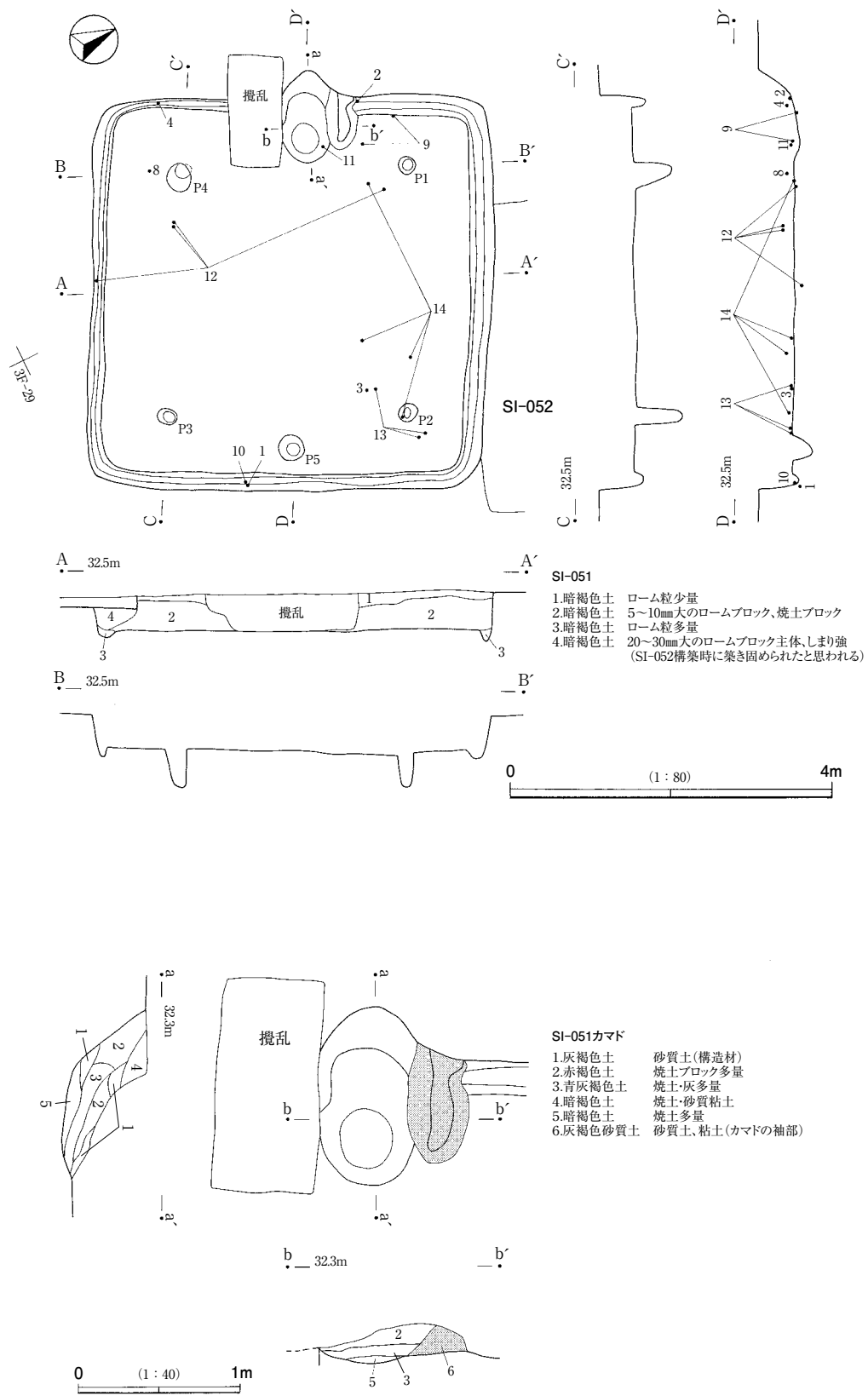
1~5は須恵器坏である。1・2は石英、白色砂粒及び雲母細片を多く含む。1は出入り口ピット近くの周溝内から出土している。内面体部に線刻が認められるが判読できず、記号と思われる。3は黒色粒・石英の細粒を含む。5は雲母細片を多く含む。12は須恵器の甑である。胴部から底部端にかけての破片で、孔は五孔と思われる。

6~11・13・14は土師器である。6・7はロクロ整形の坏である。6は黒色粒・白色粒を多く含む。7は雲母微細片を多く含み、軟質である。接合しなかったが、図上で復元した。丁寧な削りが施されている。8は非ロクロ整形の坏である。内外面ともミガキが施される。9は盤である。カマド東脇から出土した。内外面ともにミガキ・赤彩が施されている。10・11は鉢である。10は出入り口ピット近くの周溝内から出土している。平底で体部が扁平な半球状である。内外面に赤彩が施されている。赤彩は確実に確認できた部分のみ図示したが、内外とももう少し広い範囲に施されていた可能性も高い。11はカマド火床部より検出された。体部が半球状で、10と同様平底であろう。白色粒を多く含む。内面に剥落と黒色の付着物があり、二次焼成を受けたと思われる。13・14は常総型の甕である。白色粒・雲母細片を多く含む。胴部に煤が付着する。

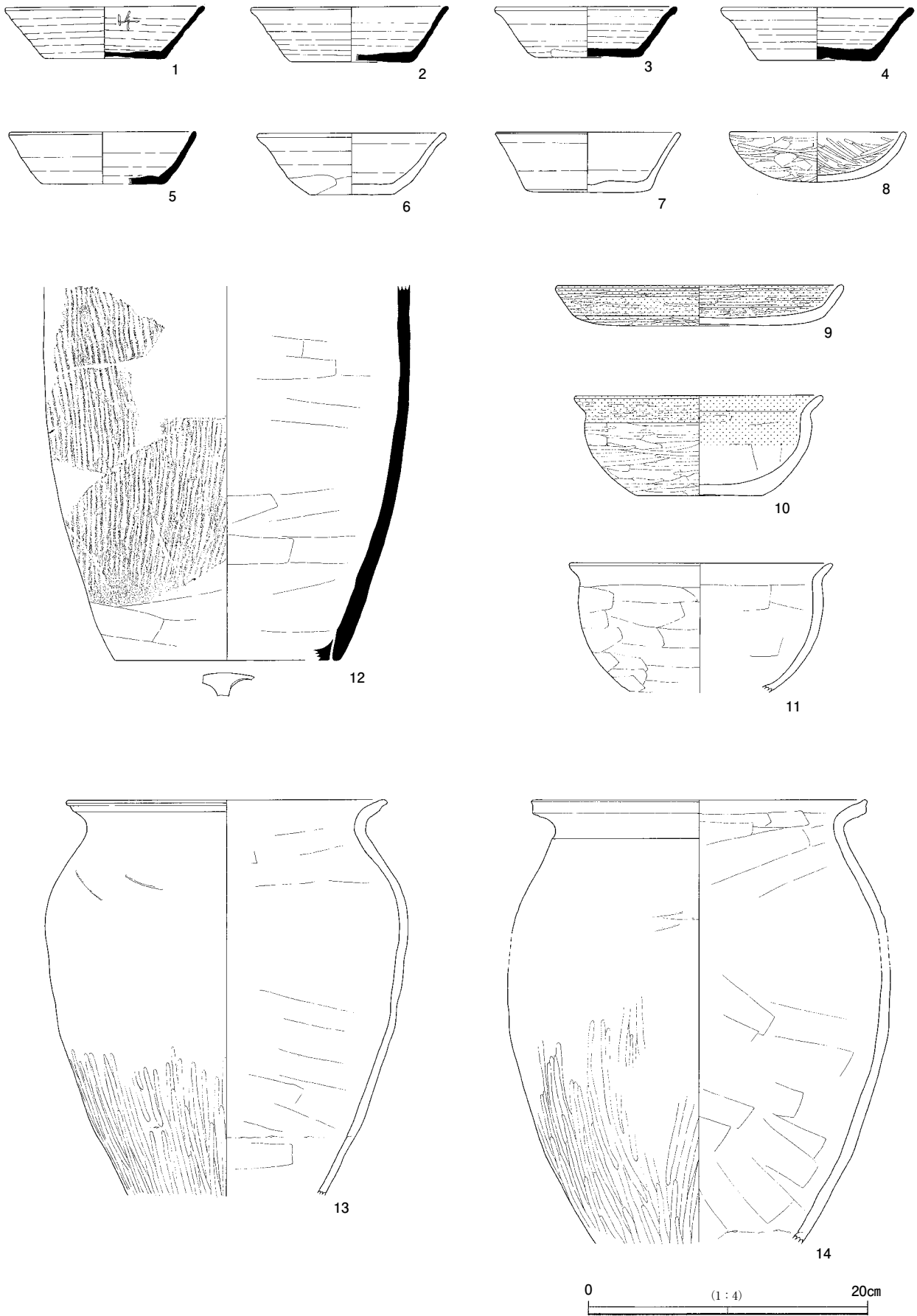
SI-052 (第7図、図版2・4・5)

調査区の2G-80グリッド付近に位置する。主軸方位はN-22.5°-Eである。南西部分がSI-051の覆土上に構築される。全体に削平され、また、現代の構造物等により攪乱されているため遺存度は悪いが、3.45m×3.86mの隅丸方形を呈すと思われる。覆土は5mm程度のロームブロック、焼土ブロックを多量に含む暗褐色土である。また、SI-051の覆土上に位置する部分は、20mm~30mmのロームブロックを主体とする暗褐色土を踏み固めた上に床面が構築されている。壁高は最大で16cmである。周溝は、北東壁のカマド周辺を除き全周すると思われる。柱穴は検出できなかった。カマド前部に、平面形45cm×40cm、深さ27cmのピットを検出したが、本跡に伴うものかは不明である。カマドは北東壁中央やや西寄りに位置するが、掘り方の一部を除いて攪乱により破壊されており、詳細は不明である。遺物の出土量は多くなく、図示できるものは6点であった。

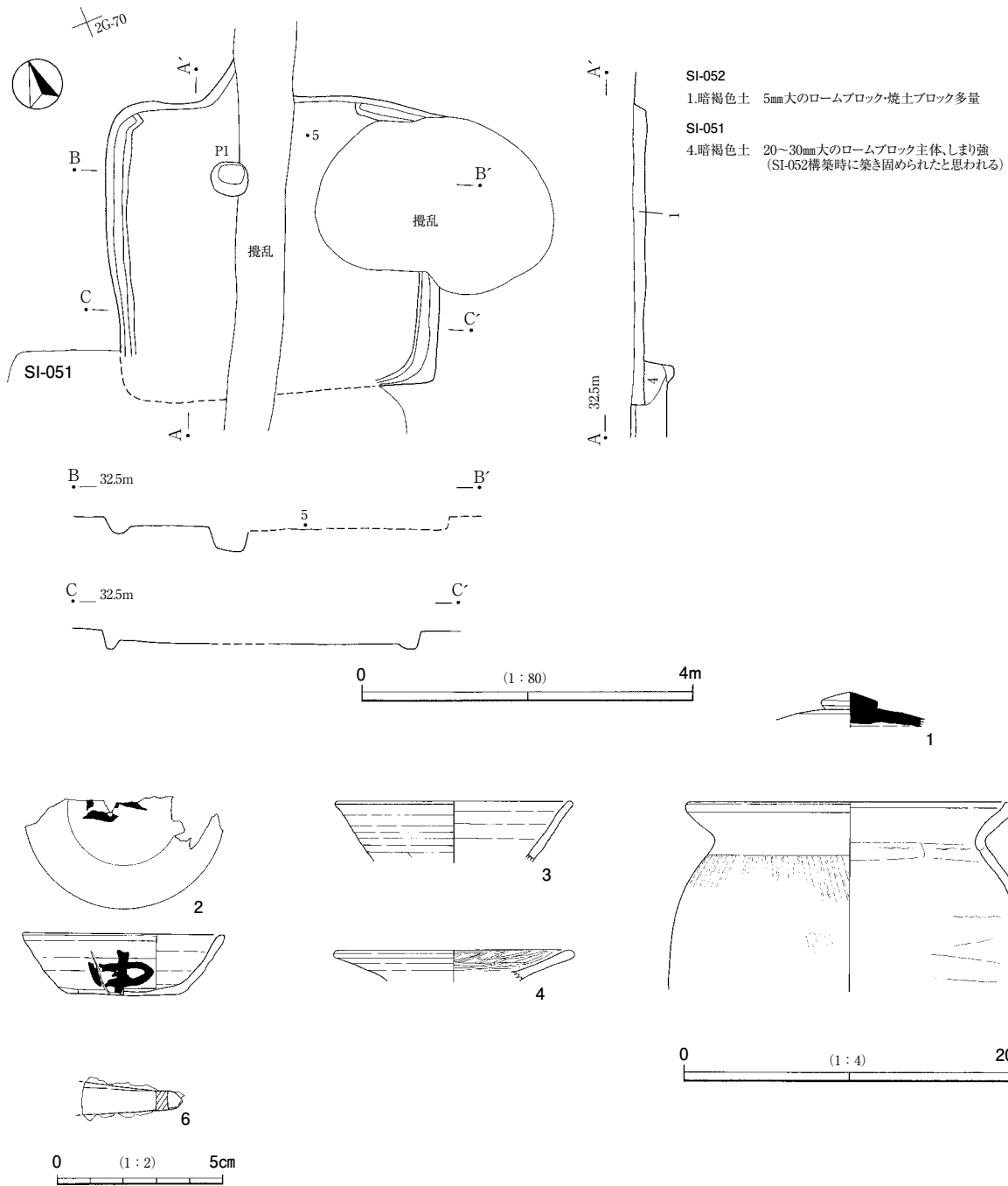
1は須恵器坏蓋である。扁平な擬宝珠形のツマリ周辺の破片である。色調は黄褐色で硬質である。



第5図 SI-051号住居跡実測図・遺物出土状況図



第6图 SI-051号住居跡出土遺物



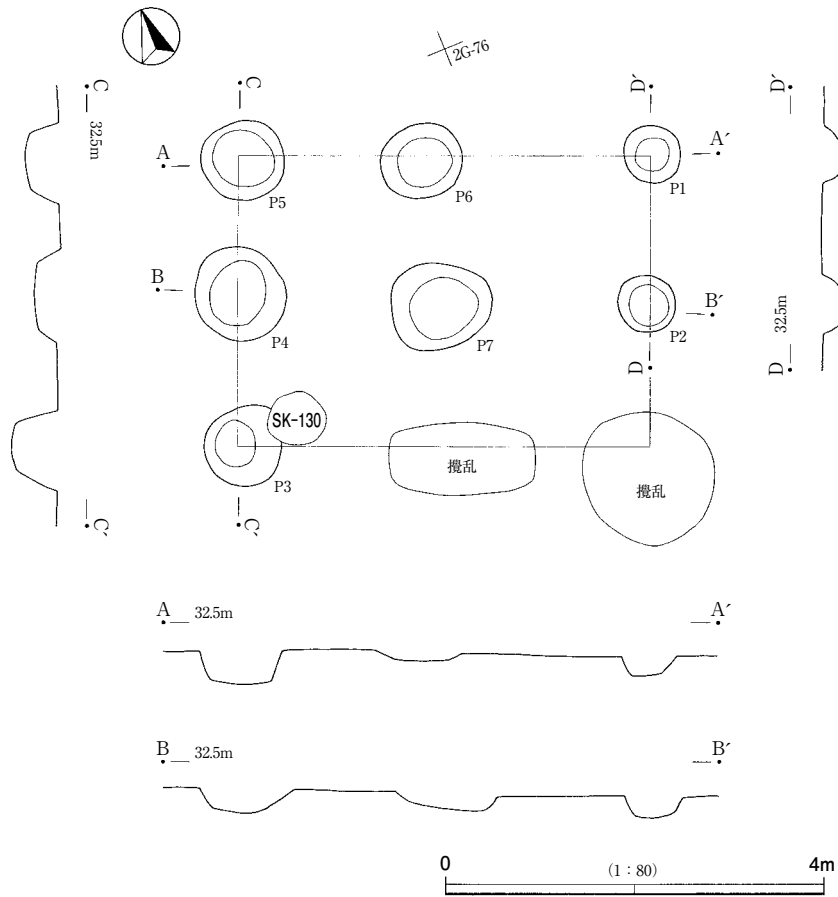
第7図 SI-052号住居跡実測図及び遺物出土状況図・出土遺物

2～5は土師器である。2・3はロクロ整形の坏である。2は石英及び白色粒を含む。底部は回転糸切り後ヘラ削りを施す。外面体部及び内面底部に墨書がある。外面は「申」が正位で書かれている。内面底部中央にも墨書がある。約1/2の遺存であるため判読しがたいが、外面と同じ「申」と思われる。3は白色粒を多く含む。4はロクロ整形の皿である。上半部のみの遺存である。内面はミガキを施す。5は甕である。北寄りのカマドに近い床面から出土している。胴部はタタキののち、ナデが施されている。内側の当て具痕はヘラナデにより消されている。口縁部はやや厚く、端部を平らに整形する。6は鉄製刀子の茎である。ピット内からの出土である。ピット内からはこの他にスラグの小片3点出土している。

2 掘立柱建物跡

SB-016（第8図、図版3）

調査区の2G-85グリッド付近に位置する。桁行2間×梁行2間の総柱建物と思われるが、南側の2基の柱穴は攪乱により確認できなかった。建物の桁行方位はN-22.5°-Eで、規模は4.36m×3.5mを測る。柱掘り方の平面形は円形で、径は0.6m~1.1mである。柱間寸法は1.54m~2.3mと幅がある。桁行中央のP6はやや西に寄って設けられ、確認面からの深さは11cmと浅い。また東柱と思われるP7は深さ13cmである。この他の柱穴は西側隅のP3が49cm、P5が35cmとやや深く、それ以外は21cm~27cmである。なお、P3にSK-130が重複するが、形状から掘立柱建物の一部とは考えにくい。出土遺物はごく少量で、図示できるものはない。



第8図 SB-016号掘立柱建物跡実測図

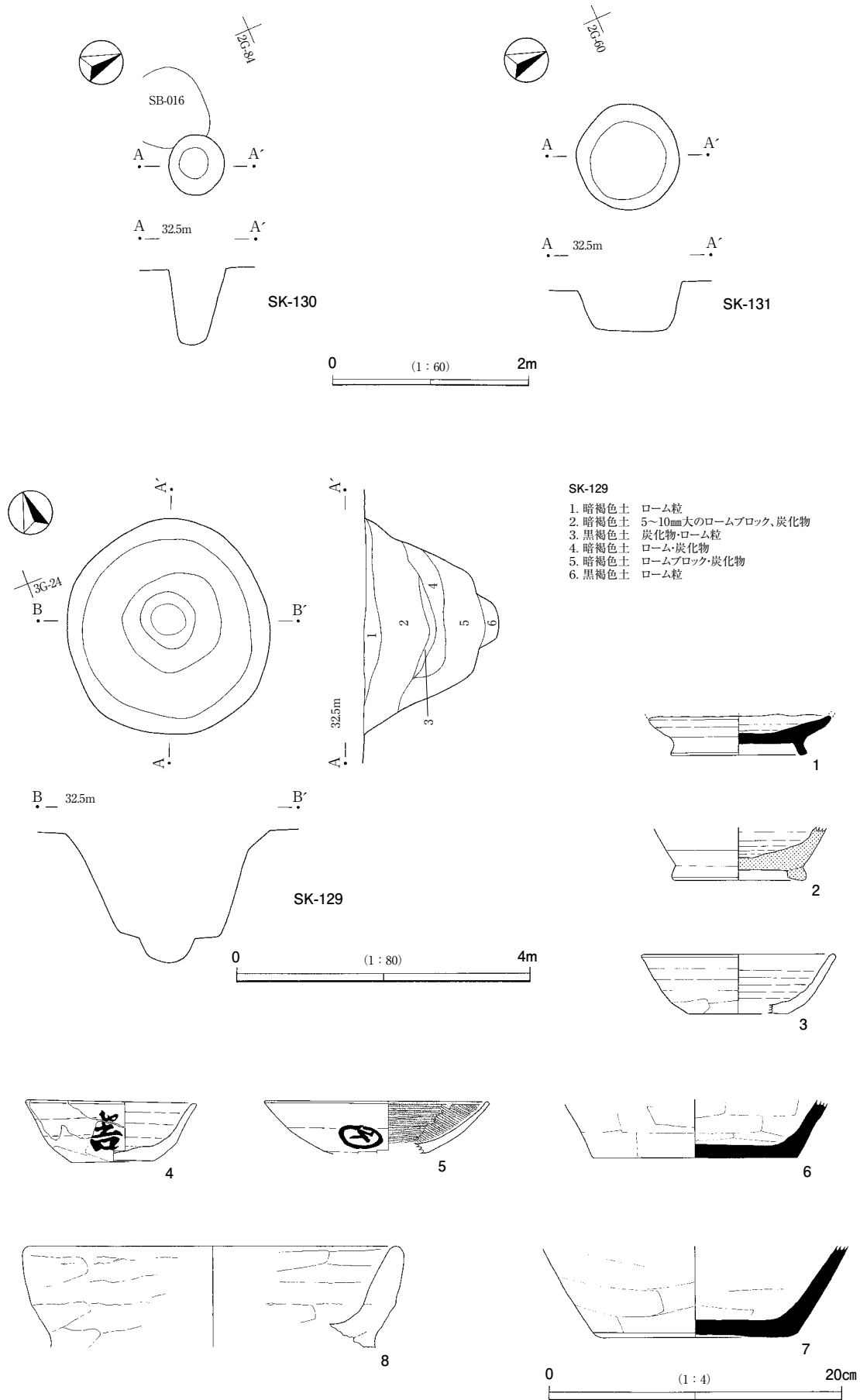
3 土坑

SK-130（第9図）

調査区の2G-84グリッドに位置する。SB-016の柱跡の一つと重複するが、新旧関係等は不明である。平面形は径約0.6mの円形を呈し、確認面からの深さは77cmを測る。時期・性格は不明である。遺物は検出されなかった。

SK-131（第9図、図版3）

調査区の2G-60グリッドに位置する。平面形は径約1.1mの円形を呈し、確認面からの深さは最大で49cmを測る。床面は平坦である。時期・性格は不明である。出土遺物はごく少量で、図示できるものはない。



第9図 SK-130・131号土坑・SK-129号井戸跡実測図・出土遺物

4 井戸跡

SK-129 (第9図、図版3・5)

調査区の3G-24グリッド付近に位置する。上端の平面形は円形で2.98m×2.78mを測る。断面はすり鉢状で、径1.35mの底面ほぼ中央に円形の掘り込みがある。掘り込み底部の平面形も円形で0.49m×0.43mを測る。確認面からの深さは1.83mで、第7次調査までに検出されている3基の井戸跡と比較すると、1m前後浅いため、調査時には土坑として取り扱ったが、断面の形状から井戸跡とした。底部に円形の井戸枠が設置されていたと思われる。覆土はおおよそ6層で、厚さが50cm以上となる層もあり、意図的な埋め戻しがおこなわれたと考えられる。遺物は主に覆土上層から中層にかけて出土したとの記録がある。

1・6・7は須恵器である。1は高台付坏である。体部より上が打ち欠かれ、割れ口が研磨されており、硯などに転用された可能性があるが平滑面は確認できない。雲母片を多く含み、比較的軟質である。6・7は甕の胴部下部から底部である。6は器面の色調は浅黄色であるが、断面は鈍い黄橙色を呈す。器面は内外ともに摩耗している。黒色粒を含む。7の色調は橙色で、白色粒・雲母の細片を含む。

2は灰釉の長頸壺の底部である。糸切痕が残る。暗緑色の釉が外面の胴部から高台内部にかけて約1/2の範囲に見られるが、胴部の厚い部分は大半が剥落している。底部内面にも降灰による自然釉が見られる。黒色粒を含み硬質である。

3～5・8は土師器である。3・4はロクロ整形の坏。3は大きめの白色粒を大量に含む。4は外面に墨書がある。墨痕が薄く明瞭には判読できないが、正位で、ひらがなの「い」に似た形と、「吉」と思われる。5は内面が黒色処理・ヘラミガキが施されている。ヘラミガキは口縁と水平方向に、直線的に施されており、全体で5～6単位を成している。外面は摩耗により調整は不明である。外面に墨書がある。○のなかに「千」であろう。SI-052出土の破片と接合したが、便宜上、破片数の多かった本跡所属とした。8は時期・器種ともに不明である。厚みは20mm程度あり、内面は比較的丁寧に調整されているが、外面は大胆な整形が施される。外面は火を受けており器面が荒れている。肩状の部分に貼り付けられていたと思われ、置きカマドのような器形が想定される。

5 縄文時代の遺物（第10図、図版5）

縄文時代と判断できる遺構は検出されなかった。縄文土器片は調査区全域から散発的に検出されたが、点数も少なく、いずれも小片で、8点を図示し得たのみである。遺構覆土からの出土のためグリッド不詳の1点を除き、2G・3Gグリッドからの出土である。

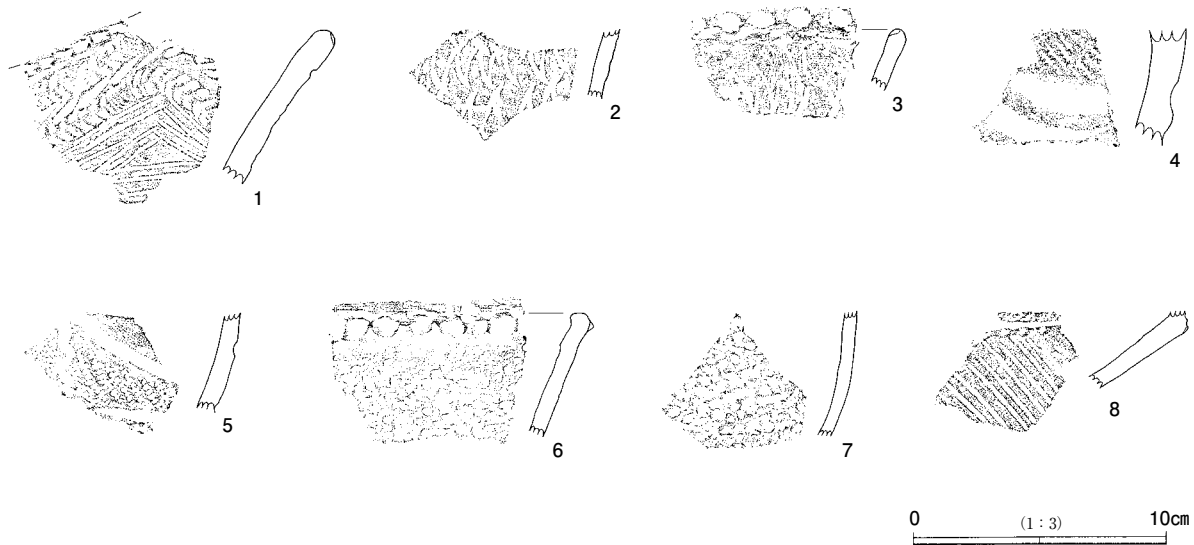
1は波状口縁で直下に連続爪型文を口縁の形状に沿って2列に施し、列の間に太沈線を斜状にずらしつつ連続して施す。連続爪型文の下部は半裁竹管による平行沈線文が施される。口縁部端部には短い刺突が連続して施される。2・3は貝殻腹縁による連続文。3は口縁部で、端部内側に指頭押捺による凹文が刻み目状に施される。浮島式と思われる。

4は低い隆帯による楕円区画文。加曾利E式と考えられる。

5はRLの縄文を施したのちに沈線による区画を行い、区画外を磨消している。連弧状の沈線文が見られる。加曾利BⅡ式と思われる。

6・7は粗製土器。どちらも内面を丁寧に調整している。6は地文に粗いLRを施し、口縁部に1条の紐線を貼付する。口縁部内側に浅い凹線2条がめぐる。加曾利BⅠ式あるいはBⅡ式と思われる。

8は浅鉢。胴部の屈曲部に沈線、直下に押捺による凹文が刻み目状に施される。肩部には縄文、胴部には斜方向の平行沈線文が密に施される。加曾利B式と考えられる。



第10図 調査区出土の縄文土器

6 まとめ

本調査区内では竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、土坑2基が検出された。第7次までと同様、奈良・平安時代の遺構と考えられるが、土坑については時期を特定することはできなかった。また、縄文時代の遺構は検出されなかった。第1次から第7次までの調査結果と並べると、遺構・遺物の分布が希薄な印象は否めないが、報告済み部分の集落の一部を構成するものといえる。

第1表 出土遺物観察表

1 土器

挿図番号	遺構番号	種別	器種	遺存率%	単位：cm、 ()は復元値、【】は現存値			色調		胎土	焼成	整形・調整		備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面	
6 1	SI-051	須恵器	坏	85%	14.4	8.6	3.8	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	石英、白色粒、雲母細片多	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	底部：回転糸切り後、手持ちヘラケズリ。内面体部に線刻
6 2	SI-051	須恵器	坏	50%	14.3	8.8	4.0	5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白	石英、白色粒、雲母細片多	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	底部：回転糸切り後、一方方向のヘラケズリ
6 3	SI-051	須恵器	坏	65%	(13.1)	7.6	3.7	5YR6/6 橙	5YR6/4 にぶい橙	精緻、石英・黒色細粒	良好	ロクロナデ	ヘラケズリ ロクロナデ	底部：回転糸切り後、一方方向のヘラケズリ
6 4	SI-051	須恵器	坏	35%	(13.8)	(3.5)	3.8	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	精緻	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	底部：回転糸切り後、一方方向のヘラケズリ
6 5	SI-051	須恵器	坏	30%	(13.4)	(8.9)	3.7	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	精緻、雲母細片	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	底部：回転糸切り後、一方方向のヘラケズリ
6 6	SI-051	土師器	坏	20%	(13.6)	(6.0)	4.5	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/4 にぶい橙	精緻、黒色粒・白色粒	良好	ロクロナデ	ヘラケズリ ロクロナデ	底部：手持ちヘラケズリ
6 7	SI-051	土師器	坏	20%	(13.4)	(9.0)	【4.3】	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/4 にぶい褐	精緻、雲母細片多	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	底部：ヘラケズリ
6 8	SI-051	土師器	坏	35%	(12.7)		3.6	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	精緻	良好	ヨコナデ ミガキ	ヘラケズリ ヨコナデ ミガキ	
6 9	SI-051	土師器	盤	65%	(20.6)		3.0	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	精緻	良好	ヨコナデ ヘラナデ ミガキ	ヘラケズリ ヨコナデ ミガキ	赤彩
6 10	SI-051	土師器	鉢	85%	17.9	9.0	7.2	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/7 橙	精緻	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラケズリ ヨコナデ ミガキ	
6 11	SI-051	土師器	鉢	口～体部 20%	(19.0)		【9.3】	5YR6/8 橙	2.5YR5/8 明赤褐	精緻、白色粒多	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	
6 12	SI-051	須恵器	甌	胴部～ 底部20%	(16.2)		【26.9】	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	精緻	良好	ヘラナデ	ヘラケズリ ヘラナデ タタキ	
6 13	SI-051	土師器	甕	口～胴部 25%	(23.0)		【28.4】	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/5 にぶい黄褐	雲母細片、白色粒多	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラナデ ミガキ	胴部に煤付着
6 14	SI-051	土師器	甕	口～胴部 25%	(24.0)		【31.8】	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR4/4 褐	雲母細片、白色粒多	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラナデ ミガキ	胴部に煤付着
7 1	SI-052	須恵器	蓋	天井部 20%			【2.1】	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	精緻	良好	ロクロナデ	ヘラケズリ ロクロナデ	
7 2	SI-052	土師器	坏	45%	(12.2)	6.8	3.8	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	精緻、石英、白色粒	良好	ロクロナデ	ヘラケズリ ロクロナデ	底部：回転糸切り後、一方方向のヘラケズリ。内外面に墨書「申」
7 3	SI-052	土師器	坏	口～体部 30%	(14.4)		【3.8】	10YR6/6 明黄褐	7.5YR7/4 にぶい黄橙	精緻、白色粒	良好	ロクロナデ	ヘラケズリ ロクロナデ	
7 4	SI-052	土師器	皿	口～体部 15%	(14.6)		【1.9】	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	精緻	良好	ロクロナデ ミガキ	ロクロナデ	
7 5	SI-052	土師器	甕	口～胴部 20%	19.9		【11.5】	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/4 褐	精緻	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ナデ タタキ	
9 1	SK-129	須恵器	高台付坏	40%	12.5	(9.3)	【2.7】	7.5Y8/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	精緻、雲母片多	良好	ロクロナデ	ロクロナデ	底部：回転ヘラケズリ。転用土器
9 2	SK-129	灰釉	長頸壺	胴部～ 底部20%		9.2	【3.7】	7.5Y8/2 灰白	7.5Y8/2 灰白	精緻、黒色粒	良好	ロクロナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	外面に緑釉
9 3	SK-129	土師器	坏	25%	(13.2)	(6.8)	4.1	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	精緻、小石多	良好	ロクロナデ	ヘラケズリ ロクロナデ	底部：手持ちヘラケズリ
9 4	SK-129	土師器	坏	80%	11.7	5.6	4.4	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	精緻	良好	ロクロナデ	ヘラケズリ ロクロナデ	底部：手持ちヘラケズリ。外面に墨書、「吉」
9 5	SK-129	土師器	坏	30%	(15.4)		【3.7】	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	精緻	良好	ロクロナデ ミガキ	ヘラケズリ ロクロナデ	黒色内面黒色処理、体部外面墨書、○のなかに「千」
9 6	SK-129	須恵器	甕	胴部～ 底部20%		14.0	【4.0】	7.5YR6/8 橙	7.5YR6/8 橙	精緻、白色粒・雲母細片	良好	ヘラナデ	ヘラケズリ ヘラナデ	
9 7	SK-129	須恵器	甕	胴部～ 底部20%	(14.0)		【6.2】	2.5Y7/3 浅黄	10YR6/4 にぶい黄橙	精緻、黒色粒	良好	ヨコナデ	ヘラケズリ	
9 8	SK-129	土師器	不明	5%	(26.0)		【6.9】	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	精緻	良好	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラナデ	

2 金属製品など

挿図番号	遺構番号	遺物番号	製品名	単位：cm、【】は現存値				備考
				長さ	幅	厚さ	重さg	
7 6	SI-052	2	鉄(刀子)	【3.0】	1.0	0.35	5.41	
	SI-052	4	スラグ	7.2	5.0	2.1	91.02	図版4
	SI-052	4	スラグ	3.2	2.5	1.5	15.07	図版4
	SI-052	4	スラグ	2.9	2.1	2.0	13.31	図版4

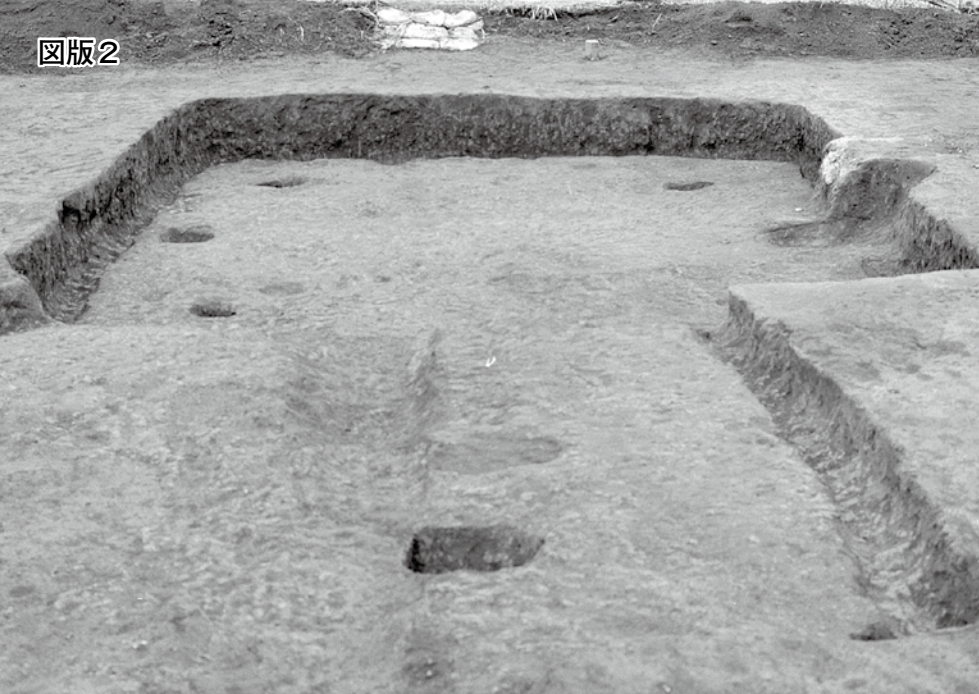
写 真 图 版



松崎山ノ台遺跡

松崎外小代内小代遺跡

周辺航空写真



SI-051号住居跡
全景(北東から)



SI-051号住居跡
遺物出土状況(南西から)



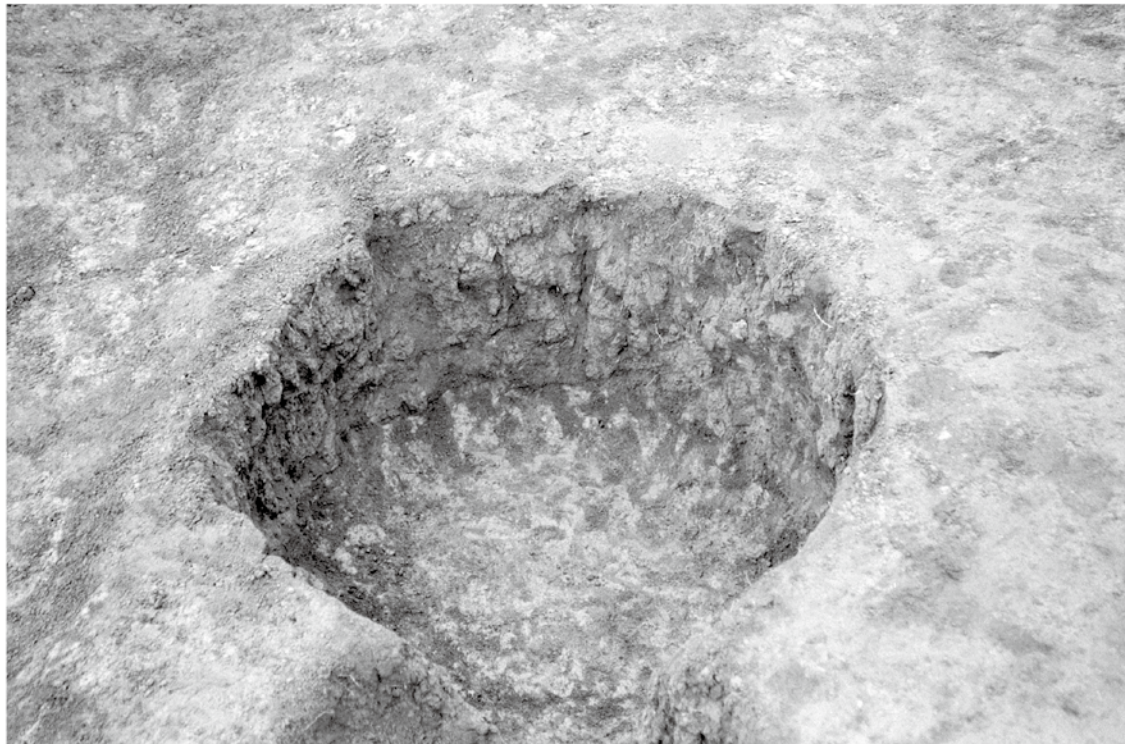
SI-052号住居跡
全景(東から)



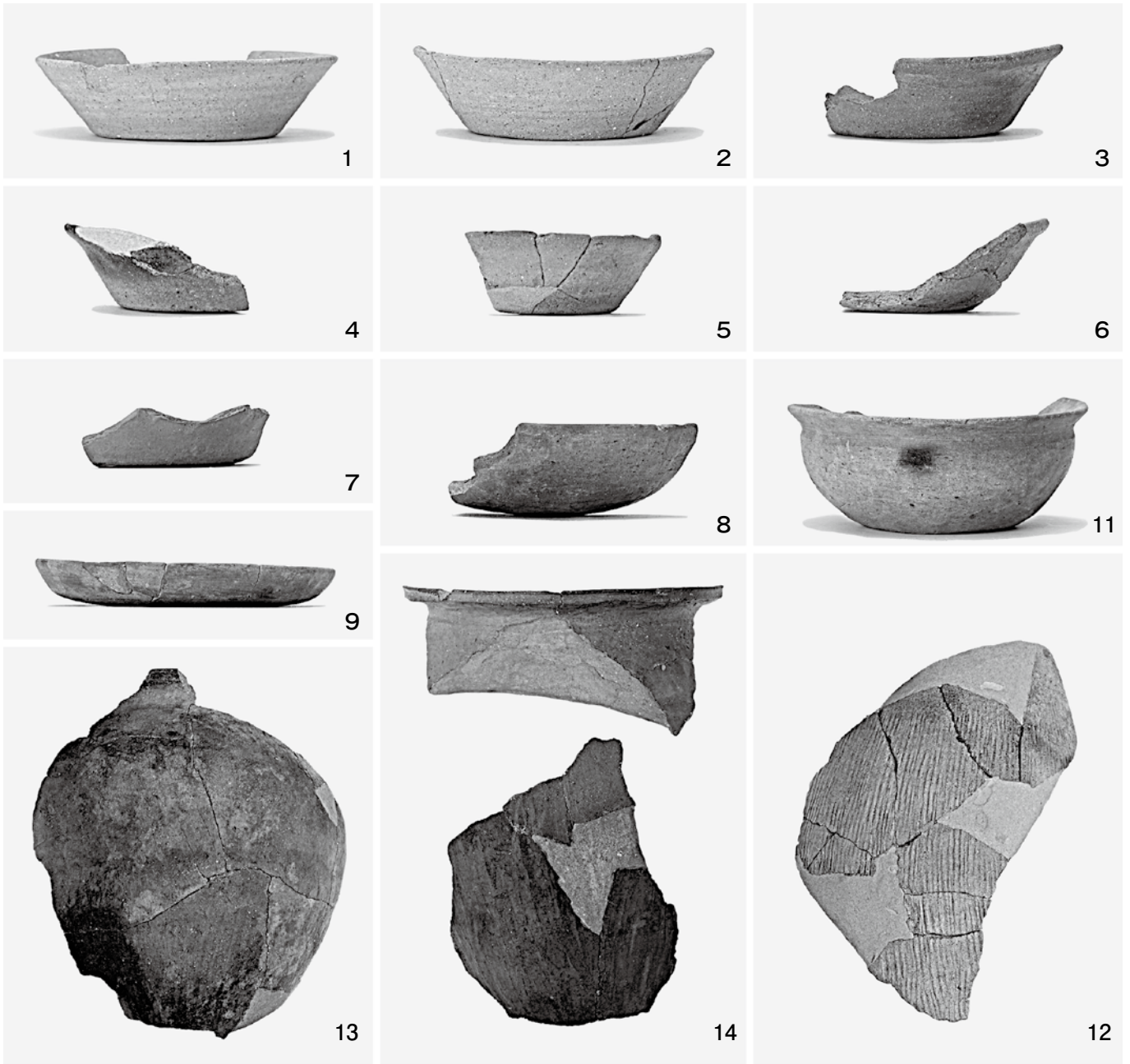
SB-016号掘立柱建物跡
全景(東から)



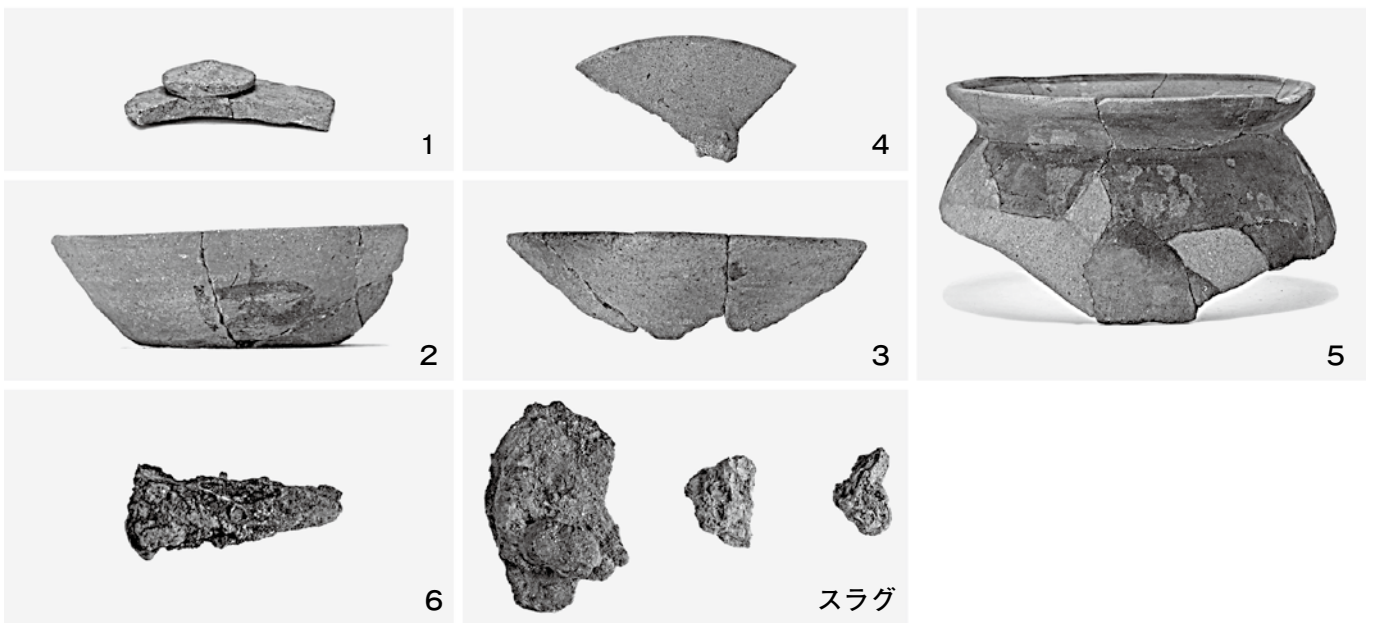
SK-129号井戸跡
全景(北東から)



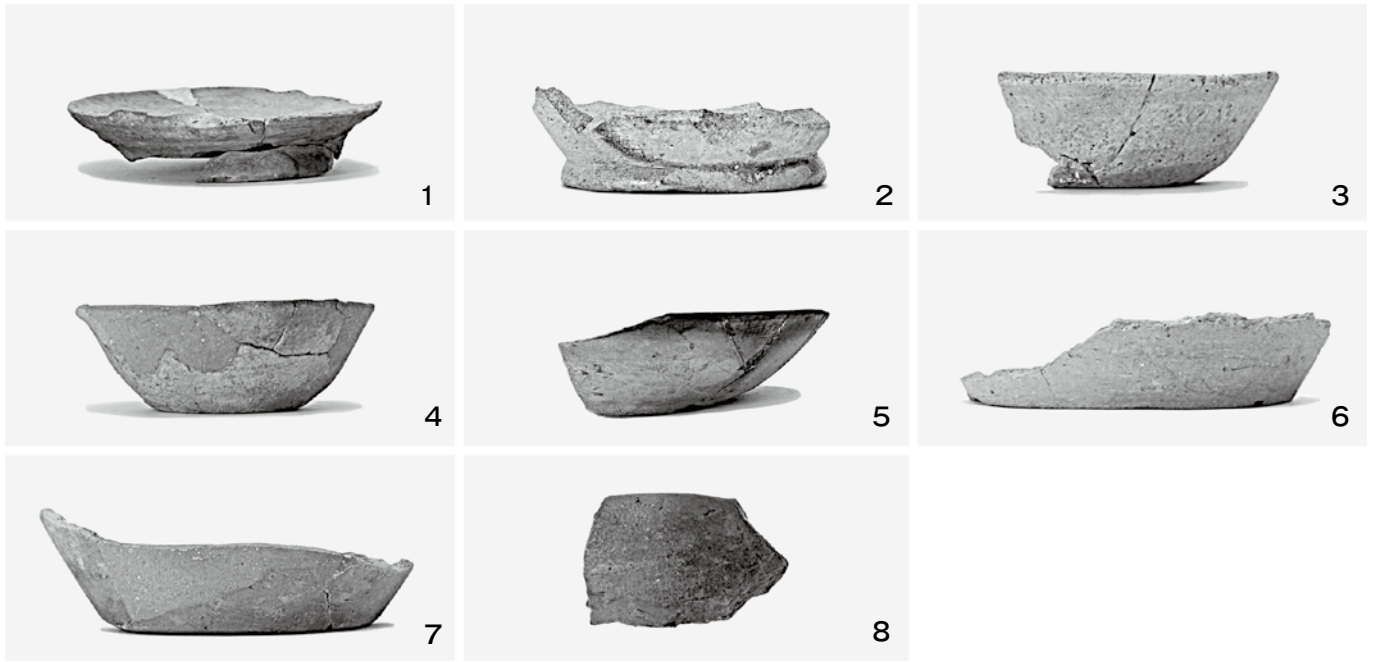
SK-131号土坑
全景(東から)



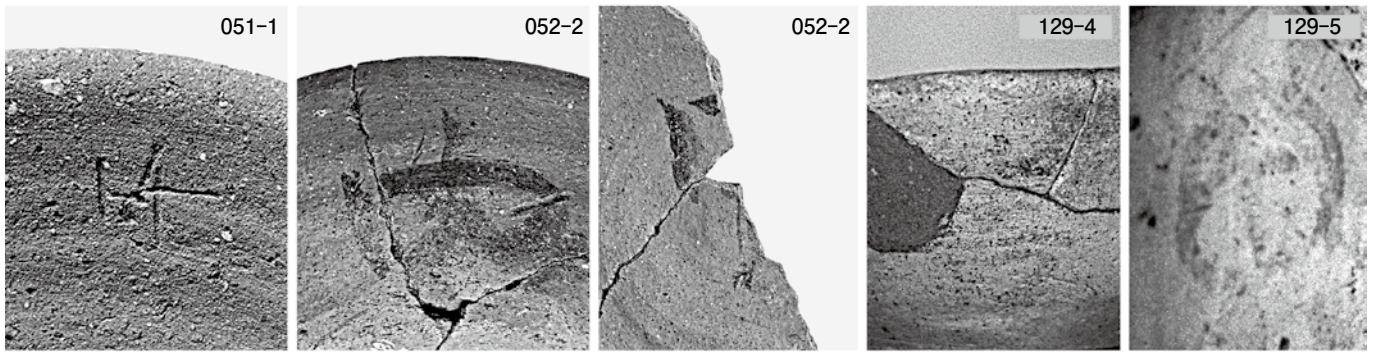
SI-051号住居跡出土遺物



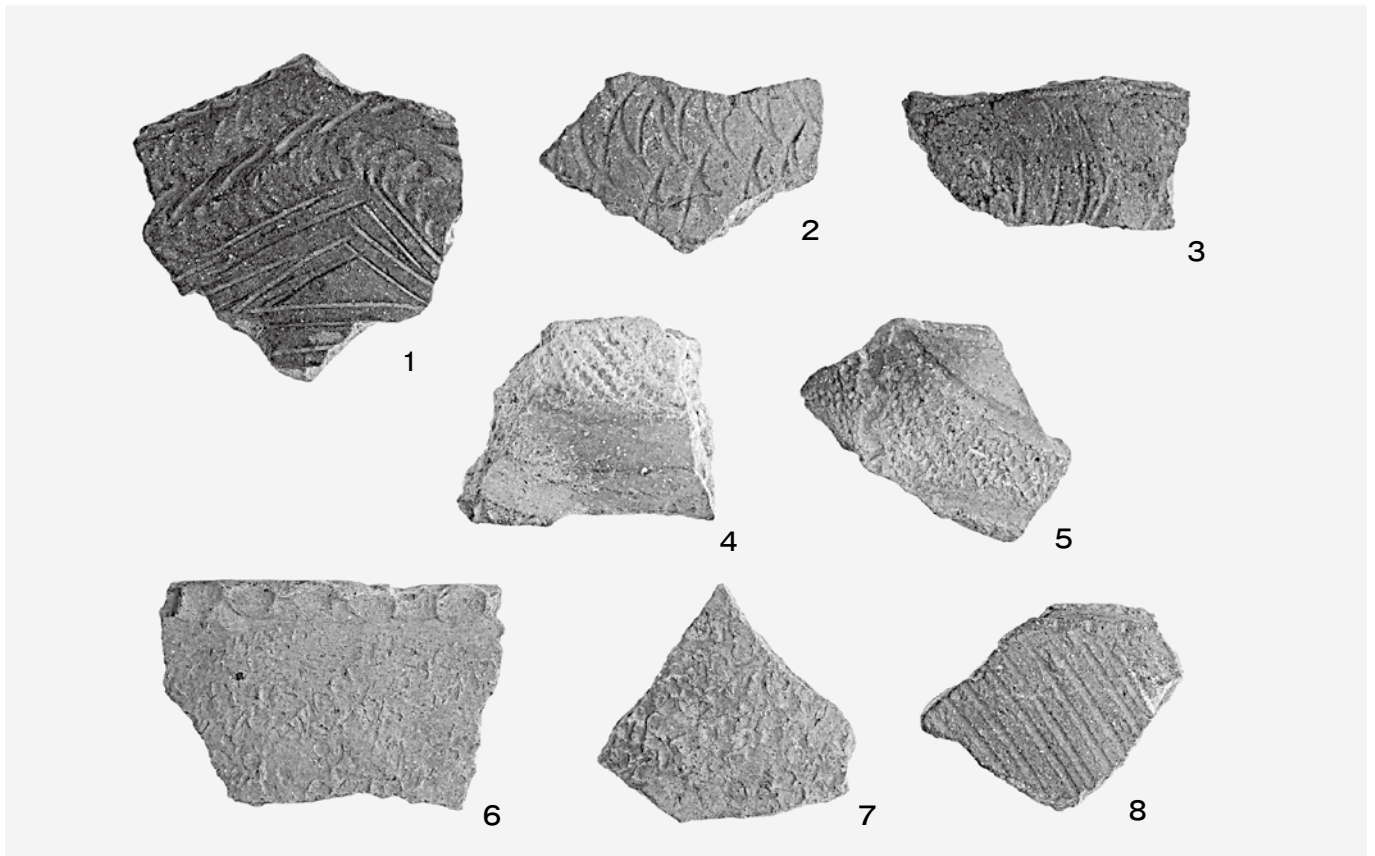
SI-052号住居跡出土遺物



SK-129号井戸跡出土遺物



SI-051・052号住居跡及びSK-129号井戸跡出土文字・記号資料



調査区出土の縄文土器

報告書抄録

ふりがな	なりたしんこうそくてつどう・きたちばどうろまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ							
書名	成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名	成田市松崎外小代内小代遺跡(2)							
巻次	6							
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第694集							
編著者名	倉内郁子							
編集機関	公益財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL043-424-4848							
発行年月日	西暦2012年10月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まんぎきそとこだい 松崎外小代 うちこだい 内小代	なりたしん 成田市松崎字外小 だいばんち 代1904番地ほか	1221	077	35度 47分 59. 1470 秒	140度 17分 17. 8423 秒	20120201～ 20120228	665	鉄道・道路建設
				世界測地系(3G-00)				
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
松崎外小代内小代	集落跡	縄文時代前期 縄文時代中・後期 奈良・平安時代		縦穴住居跡	2軒	縄文土器		
				掘立柱建物跡	1棟	土師器・須恵器		
				井戸跡	1基	鉄製品		
				土坑	2基			
要約	成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書5で報告された奈良・平安時代の集落の一部をなす、住居跡と掘立柱建物が検出された。							

千葉県教育振興財団調査報告第694集

成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書6

— 成田市松崎外小代内小代遺跡(2) —

平成24年10月31日発行

編 集 公益財団法人 千葉県教育振興財団
文化財センター

発 行 成田高速鉄道アクセス株式会社
船橋市本町2-10-14

公益財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 株式会社 正文社
千葉市中央区都町1-10-6
